

特別委員会活動報告

決算審査

本委員会に付託された全会計の決算は12月26日の本会議で全員賛成で認定されました。

各会計の決算概要

一般会計の歳入決算額は52億2080万4千円、歳出決算額は509億9022万2千円差し引き残高13億3058万2千円。国民健康保険等の13特別会計の歳入決算総額は302億8935万2千円、歳出決算総額は293億144万円で差し引き残高は9億8791万2千円。病院事業会計は収益的収支で収入28億8065万1千円、支出30億7402

万4千円。資本的収支で収入2億2361万9千円、支出2億4076万円、不足する額は過年度損益留保資金等で補填している。水道事業会計は収益的収支で収入12億4047万2千円、支出11億8419万2千円、資本的収支は収入4億8380万5千円、支出8億8530万9千円、不足額は過年度損益留保資金等で補填している。

遅れから16億1703万円もの事業を翌年度に繰越している。予算の執行については計画的かつ効果的に行い、住民サービスの向上を図るべきである。

がなかったと思料するので、委員の増員も含め補助する職員への補充等を検討し、監査体制の充実を図る必要がある。

早い方向性を見出し、累積赤字の解消に努めることが重要である。

市税の滞納処分について
市税の収入未済額が3億834万6千円(うち滞納繰越分収入未済額2億7329万7千円)、不納欠損額3918万1千円を計上している。税の公平負担の原則に基づき滞納処分を行い、不納欠損に至らないよう職員挙げて徴収事務に取り組み必要がある。

意見

① 一般会計について

計画的な事業執行について
平成16年度予算は、合併後初の通年予算の執行で、歳出の執行率は95・1%となっている。暫定予算による事務執行の遅れや本庁支所間の意思の疎通、連携不足と役割分担の確定の

監査体制の充実について
決算書に一部不適切な処理が見受けられたが、これについては、監査における時間的な余裕

市立病院としての
使命と役割
両津・相川病院の病床利用率は80%未満である。質の高い診療を目指し病床利用率を高めるには医師の確保と特色のある病院経営が重要な課題である。佐渡の医療をどうするか

③ 水道事業会計
水道料金の未収金の解消
平成16年度末の水道料金の未収金額が5629万2千円を計上している。未収金額の中で恒常的な滞納が相当数見受けられる一方で、平成14年度末に不納欠損処分したものが翌年度に納入された事例があり、16年度で特別利益として処理がなされている。
水道使用料金は受益者負担の原則と、公平な料金徴収に意を用い、時効となり不納欠損処分に至る前に、全力を挙げて回収に取り組みよう努力された

